

# 夢窓幼稚園通信第1号

2014年 4月 4日



満天の星空を仰ぎ見ると、太古からこれまでのすべて一人ひとりが星になって地球に光を降り注いでくれているような気がしてきます。

夜はもちろん明るい昼間も...雲や街の電灯やおひさまの光で目には見えないとしても...たくさんの星々(人々)の見守りや励ましの中で、今私たちは生かされ自分自身を実現し、誰かのために働くことができるのですね。

夢窓幼稚園が生まれてから暦がひとめぐり...今年60歳を迎えます。

想いあふれる天上からの光を受け、歓びにみちた歌声や笑顔を吸い込んで大地に立つ、60の年齢を幹に刻みつけた一本の大樹。

大樹の下で今日も子どもたちが集い走り回り、大人たちが自分たち自身を探し求めることができる幸せをかみしめたいと思います。

満天の星空を静かに見上げると、そこが懐しい故郷のように感じるがあります。

新しいバッチをつけた青バッチさんも黄色バッチさんも、この4月から共に過す新入の子どもたちも、私たちも、あの星々の世界からやってきた仲間なのだと...あんな遠いところから降り立ってこの場所に出会えた仲間なのだと思います。

桜の大きな木の下で一人ひとりが心や身体の奥深くでそんな根拠を感じながら、それぞれのかけがえのなさを今年も確かめ合うことができると思います。

60周年...特別な年であり、またいつものように今年ならではの時が流れるこの一年。共にひとつひとつの時をつむいでいきましょう！どうぞよろしくお願ひします。

さあ、新しい春ですよ。新しい時を生きましょう！

共に星空からの想いにみちた光を受け、大地に立つ大樹の下で...

園長 弁光 泰雄